



ほめることの大切さ

皆さんの家庭では、子どもを積極的にほめていますか。ほめることは大切だとわかってはいるものの、「どのようにはめたらいいかわからない」などと悩んでいる家庭は多いのではないのでしょうか。そこで、子どもをほめることの重要性やほめ方を紹介します。

ほめることは、子どもの健全な心と体を育てるうえで大切なことです。子どもは大人からほめられることで、挑戦する気持ちや前向きに取り組む気持ちが芽生えるとともに自己肯定感を育み、成長するうえで大きな自信につながります。しかし、やみくもにほめても、子どもはなぜほめられているのかわからなければ、「バカにされている」と思うこともあります。そのため、子どもをほめる時にはどこがよかったかなどを具体的に伝えることが重要です。例えば、子どもの日記

を見た時に、「しっかりと書けている」とほめるのではなく、「文字が丁寧に書けていて読みやすい」「自分の気持ちが正直に書けているからおもしろい」など具体的にほめた方が伝わりやすく、ほめられていると実感しやすいです。また、ほめる部分は結果だけにこだわらないことも大切です。挑戦して失敗した時は、頑張っていた過程や挑戦した気持ちなどをほめることで、努力したことや挑戦したことが大切だと思えるようになり、もう一度チャレンジしてみようという気持ちになります。ただし、ほめすぎることにはかえって子どもの成長に悪影響です。大切なのは、ほめるべきときにしっかりとほめてあげることです。そのためには、日頃から子どもの行動や言動に関心をもち、ほめるポイントを探す努力をしなければなりません。

子どもをほめるということは大切であると同時に大変でもあります。大変だからこそ、正しくほめることで子どもの可能性は大きく広がっていきます。ただほめるだけではなく、ほめ方を工夫したり、子どもにあったほめ方を見つけたたりして、ほめ上手になりましょう。



特別支援教育便り

▽問い合わせ 学校教育係
(☎223局3547)

芦屋町では、一人ひとりに合った特別支援教育のさらなる推進に取り組んでいます。

●芦屋小学校の「難聴学級」

芦屋小学校に新たに難聴学級ができました。難聴学級は、聴覚障がい程度が比較的軽い児童生徒を対象としています。補聴器をつけての指導、音や言葉を正確に聞き取る指導を中心に行います。

また、一日の学校生活の中では、通常学級で共に活動する時間もあります。

●小学校の「通級指導教室」

通級指導教室は、小中学校の通常学級に在籍している軽度の障がいがある児童生徒に対して、主として各教科などの指導を通常の学級で行いながら、障がいに応じた指導を特別の場で行う指導形態です。通っている子どもは、通常学級のクラスに籍を置いているため、学校生活のほとんどは通常学級にいて、週に1～2時間、通級指導教室へ通います。

令和2年度 特別支援学級や特別支援教育にかかわっている担当者（敬称略）

	芦屋中学校	芦屋東小学校	芦屋小学校	山鹿小学校
特別支援教育コーディネーター	鱒村 礼子	梁井 佳子	西牟田 裕子	古市 早苗
特別支援学級担任（知的障がい）	かがやき学級 鱒村 礼子	たんぼぼ学級 久原 伸子	こすもす学級 岩本 哲平	ひまわり学級 田中 里美
特別支援学級担任（自閉症・情緒障がい）	きらめき学級 香月 康之	パンジー学級 梁井 佳子	さくら学級 西牟田 裕子	なのはな学級 古市 早苗
特別支援学級（難聴学級）			あさがお学級 石田 幸	
通級指導教室担当者	中原 美郷	百田 由起子		

※芦屋町教育委員会担当者 教育相談員 森田 恵美子

芦屋町の小学校には通級指導を担当する教諭が芦屋東小学校にいます。この教諭が全ての小学校の通級指導を行います。子どもが在籍する小学校で通級指導を受けることもできます。

※特別支援教育便りは、広報あしや6月1日号から隔月で掲載します。これから特別支援教育を分かりやすく伝えていきます。

芦屋中学校

第74回入学式

4月9日、第74回入学式を行いました。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため式の開催を懸念していましたが、万全の対策を講じ開催することができました。

その一つとして、給食センターの皆さんが除菌のために会場の椅子や机を1つずつ丁寧に拭き上げてくれました。

入学式の在校生の参加は、当初は3年生のみ参加し合唱を1曲披露しようという計画がありました。それに対して3年生から「合唱を2曲に増や



そう」「手作りマスクを贈ろう」などの声があがりました。このように、新入生のために自分たちができることを誰もが考え続

けた1カ月間でしたが、残念なことに式当日、在校生は不参加となりました。

新入生の皆さんにも、いつか困難な場面や難しい選択に遭遇したときには、「誰かのために…」という思いを大切にしてほしいと思います。

新しい制服に身を包み、凛とした姿で式に臨んだ新入生91人を代表して、玉野杏実さんが「この日の感激と喜びを忘れず、芦屋中学校を発展させる」と希望に満ちあふれる宣誓を行い、素晴らしい入学式となりました。

(教頭 石松誠)



学校での出来事を先生たちがお届け！

山鹿小学校

4月10日、39人の新1年生が入学しました。小学校に入学した喜びと小学校生活への期待感とで、児童全員の目はキラキラと輝いていました。

山鹿小学校の合言葉



東 恒平校長の話では、本年度リニューアルした山鹿小学校の合言葉を基に、新しい学校生活で目指してほしい姿を紹介しました。

- 「じぶんで」できることを増やしましょう
- 「みんなで」協力して学校生活を送りましょう
- 何事にも「やるきで」最後まで取り組みましょう
- 「思いやり」をもって友だちに接しましょう

どの児童も、校長先生からの合言葉の話や担任発表を、背筋を伸ばして行儀よく聞いていました。児童の姿に、職員一同とても感心しました。

存在感いっぱいの6年生

今年の入学式は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、例年参加している6年生は不参加とな

りました。しかし、至る所で、在校生代表としての存在を感じることができました。

「お祝いの言葉」では、6年生がビデオ出演。1年生を迎える言葉を伝えるとともに、校歌を紹介しました。新1年生を迎える在校生としての思いが伝わってきました。

新1年生の教室に置かれた6年生手作りカードのプレゼント。折り紙で作ったピカチュウのカードに、新1年生一人ひとりへのメッセージが書かれていました。どの子も大事そうに手にとって読んでいました。このように、最上級生として、最初の務めを見事果たした6年生。そんな姿に頼もしさを感じました。6年生を中心とした今年1年間の活動がとても楽しみです。

(教頭 吉川亨)

